

～院長コラム～

『相手が何かわからなくても』

漢方薬は使えます。

発熱した、もともと元気で胃腸は丈夫、汗をかいていない。

大人なら葛根湯2包を熱いお湯で飲む、3時間後に汗をかかなかつたら、さらに葛根湯2包を熱いお湯で飲む。

お子さんなら麻黄湯（まおうとう）を寝ている時間を除いて、2時間おきに飲みます。

①37.5℃以下、②汗をかく、③おしっこが出る、のどれか1つを認めるまで3回、4回と飲みます。

5回、6回飲んででも解熱しないときは医療機関を受診するのがベターです。漢方的には、麻黄湯を中止して柴胡剤、例えば柴胡桂枝湯（さいこけいしとう）を1日2回で内服します。

解熱するまで、熱が上がりが下がりが淡々と飲み続けるのがコツです。葛根湯が飲めない、胃に障る大人の方は麻黄附子細辛湯（まおうぶしさいしんとう）を1日2回、あるいは3回飲みます。

高齢の方は香蘇散（こうそさん）、参蘇飲（じんそいん）を飲みます。

相手にする感染症が明らかにインフルエンザとわかれば抗インフルエンザ薬を使用すれば良いです。

漢方薬の併用は構いません。

コロナであろうが、アデノであろうが、エンテロであろうが、パラインフルエンザであろうが、漢方薬は関係なく飲んでみれば、うまくいく可能性は十分あります。ひるまず、すぐ飲む。

「子ども健康ネットブログ」より



なかしま子どもネット QRコード
※名前を入力して送信して下さい



子ども健康ネットブログ
QRコード

なかしま子どもクリニック



通信

2020年11月号

なかしま子どもクリニック 瑞穂市十九条(パロー北)

ホームページ www.n-kodomo.com

診療時間		月	火	水	木	金	土	日
午前	8:30~12:00	○	○	○	○	○	○	
午後	14:00~15:00		△		★	△		
	16:00~18:30	○	○			○		

★:漢方外来 14:00~17:30 受付 △:乳幼児健診及び予防接種



TEL:058-327-3100

2015年5月11日～
診察・予防接種
インターネット予約
QRコード

